

(倫理様式 2-2-1)

理学療法、作業療法、言語聴覚療法提供量の ADL 能力向上に対する効果

1. 研究の対象

2020 年 4 月以降に当院回復期リハビリテーション病棟に入院し、2024 年 3 月までに退院した初発の脳卒中片麻痺患者全症例

2. 研究目的・方法

回復期リハビリテーション病棟では、患者の効率的な ADL（日常生活動作）能力改善が求められています。また、回復期リハビリテーション病棟では、リハビリテーション量の確保を目的にリハビリテーションを 9 単位（1 単位 20 分）まで実施することが可能となっています。しかし、リハビリテーションは理学療法、作業療法、言語聴覚療法で実施されますが、それぞれの療法の提供量における ADL 能力改善効果の違いを十分に分析した報告は散見されていません。

当院リハビリテーション部では、ADL がどれだけ自立しているかを数値化する評価法である Functional Independence Measure（FIM）を用いて ADL を評価しています。今回、入院から退院までの FIM の改善点と理学療法、作業療法、言語聴覚療法の提供量を調査し、効果の違いを明らかにします。これらの調査で明らかにしたことにより、適正なりハビリテーション量の投入を行うための一助となることを目指していきます。

美原記念病院リハビリテーション部では、入院時と退院時に加え、週に 1 回リハビリテーション担当者が身体機能評価や生活状況の評価を行っています。今回の調査には、このデータに加え、年齢、発症から回復期リハビリテーション病棟入棟までの日数、回復期在棟日数、入院基本料、疾患別リハビリテーション料を用います。

これらの研究は 2024 年 12 月～2026 年 3 月の間に実施します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、疾患、身体機能の情報、生活状況の情報 等

※個人が特定される情報は用いません。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部

(倫理様式 2-2-1)

研究責任者 石森卓矢

住 所：群馬県伊勢崎市太田町 366

TEL：0270-27-8813 FAX：0270-24-3359

-----以上